

平成 21 年度第 2 期宮前区区民会議 公園・地域づくり部会摘録

- 開催日時 平成 21 年 7 月 28 日（火） 18：15～20：20
- 会 場 宮前区役所 1 階地域振興課奥会議室（旧区長室）
- 参加者 佐藤部会長、久保委員、田邊委員、福本委員、持田委員、吉岡委員（以上、公園・地域づくり部会委員 6 名）
永野委員長（以上、オブザーバー 1 名）
岩佐企画課長、成沢主査、鈴木職員（以上、宮前区企画課 3 名）
岩下研究員（株式会社シー・エス・ケイ）

□傍 聴 1 名

□開 会

岩佐企画課長が、開会のあいさつをしました。

会議の公開について、委員の了承を得ました。

8 月 4 日開催される区民会議（全体会）について、会場までの交通案内等がありました。

司会：佐藤部会長

1 議題

（1）具体的な課題解決策について

議論に先立ち、事務局が別紙資料に基づき、前回会議の討議内容について、確認しました。

佐藤部会長 前回の部会以降、企画部会で討議経過について報告、意見を伺う機会がありました。前田副委員長の方から、宮前区のプレイパークは担い手の問題等で存続の危機にあり、要綱をきちんと定めて、活動を支援していくことが非常に重要だというご意見がありました。本日オブザーバーとしてご参加いただけるという話もあったのですが、急遽本日はご欠席となってしまいました。

永野委員長 「プレイパーク」という言葉自体が良いのかどうかというご意見もありました。「冒険広場などの案もあり、宮前区版をつくっていききたい。プレイリーダーや企画運営を担っていく組織なども重要であり、その育成や組織のつくり方なども鍵になってくると思います。

佐藤部会長 前回の部会では「プレイパークルールづくり委員会」をつくっていかうというのが一つの結論になっていました。これを名前だけでなく、きちんと形あるもの、プレイパークの活動を応援していく、確実なものとしていくための検討を進められればと思います。久保委員からは、子どもの日常的な遊び場が減ってきており、お母さんたちも区役所などが行っているイベントを利用するだけで、関わることなく終わっている、子どもたちが自ら危険を体験で学ぶ機会が失われてきているという指摘もありました。この部会は高齢者から子どもまでというテーマではありましたが、まず子どもたちからアプローチして交流を深めていく方向、そこからこれまでの会議でも出てきた「親育て」「自然への愛着」などの機会につなげていければなど考えているのですが、いかがでしょうか。

久保委員 10 年、20 年という目で見れば、今の子供たちが青年、大人になり、親にもなります。課題となっている世代に対して、長い目で、継続的に活動を続けていくことが大切です。また、最初から急に全世代を対象とすることは難しいのではないのでしょうか。

永野委員長 山岡さんは 20 年、宮前区内で活動を続けているということでしたが、その継続を危ぶむ声があるというのは、これまでその活動が認知されていなかったということ、認知してほしい

ということがありそうです。地域合意も含めて、活動の趣旨や責任もご理解いただいた上で、区役所のお墨付きもあれば、活動が広がるのではないのでしょうか。今は一部の親子だけで担っており、個々への負担が大きくなってきており、見守ってくれるだけの人でもいいから、多世代の人たちが関わってくれるようなしくみが必要だということが大きいと思います。その辺りを提案できると良いとおもいます。

福本委員 誰でもいいからお手伝いをしてほしいということでしたが、実際に携わる場合には「どこまで責任を持てばいいのか」という話が必ず出てきます。個人個人が勝手に参加するのではなく、ある程度集まった方々をまとめて組織づくりをしていかないと、長続きしないと思います。ある程度組織づくりをして、当番表などつくって、「今日は誰々さんが行っている」というような体制づくりが必要です。来る日もあれば来ない日もあるでは、なしくずしになってきてしまいます。

事務局 事務局では委員会というのは、あくまでルールづくりや、行政からの支援のあり方の場を検討する場であり、実際に各現場での運営や育成に携わるのとは、別の組織と考えていたのですがいかがでしょうか。

福本委員 活動に関わっていただく一般の方々には別の形でグループをつくっていくほうがよいと思います。組織ばかり大きくなってしまっても困ります。

事務局 各公園での個別のルールについては、各公園で活動していく方々が決めていくイメージです。その辺りの切り分けは明確にしていく必要があると思います。

福本委員 私も分けた方がよいと思います。その方が、地域の方が気軽に見守りなどに参加しやすくなると思います。全体の骨子作りは委員会の方で検討するということです。

久保委員 委員会では宮前区版のプレイパークのルールをつくりだす。各公園での運用については、それぞれの公園で既存の活動や新しい活動などが担っていくということですね。

佐藤部会長 その中から、興味をもった方が委員会に参加していただくという形でしょうか。

久保委員 委員会の委員の募集方法などはどうなるのでしょうか。

事務局 委員会のメンバーなどについては、まだこれからの検討事項であると思います。あまり人数が多くなりすぎても動きにくくなる面があるのではないのでしょうか。

永野委員長 もうひとつ気になっているのが、議論ペーパーの右下にある企画をおこなう組織の確立です。これまであがっているプレイリアカーや公園キャラバンなど、日常的に公園を利用できる仕掛けづくりに、これまでの公園緑地管理運営協議会だけでなく、利用者が関われるようにという話もありましたが、これとは別にプレイパークルールづくり委員会はあるということでしょうか。

事務局 そういうイメージをもっていたのですが、どうでしょうか？

福本委員 現在の公園緑地管理運営協議会には、地元の自治会が組織的に関わっている例が非常に多いと思います。ここに一般の人が新しく食い込むのは、難しい面があるのではないのでしょうか。

永野委員長 その改革がまず必要ということではないのでしょうか。

佐藤部会長 宮前区のプレイパークのルールづくりの委員会を立ち上げるという提案を行うということでは、みなさんよろしいでしょうか。(一同同意)

日常的に公園を利用できる仕掛けづくりについてはどうでしょうか？

久保委員 イベントも良いのですが、公園の近くに住んでいる人が日常的に公園を利用してくれるということが基本になると思います。私は乳幼児の外遊び広場をやっているのですが、乳幼児を持つ親たちがどうも外遊びをしなくなっていると感じています。東京都世田谷区や高津区の方でもプレイリアカーをやっているのですが、ちょっとした遊び道具を用意するだけで子どもたちが

外で遊ぶ。段ボールだけでも、子どもたちは結構あそびます。そういうしかけをつくって定着していけばよいかなと思います。全然利用されていない公園も、「ああ、こういう風にして子どもって外で遊ぶんだ」と一度わかれば、次回はプレイリアカーがなくても、遊びに出かけるのではないかと思います。担い手の面では、今、田園調布では若い学生のボランティアの場ができています。若い世代が関わってもらえると子どもたちもよろこびます。そうしたきっかけをつくるしくみが欲しいと思います。子どもがいきいきとする表情をお母さんに見ていただきたいと思います。プレイパークは公園を大胆に変える部分がありますが、プレイリアカーは持って行って、また撤収する。以外と許可も出やすいのではないのでしょうか。ちょっと布をたらず、チョークで段ボールに落書きをする、おままごと用意をするとか簡単なことです。昔は近所のお母さんたちが自らガラガラ持ってきて、色々な子が遊べるようにしていました。ただ、今のお母さんは、室内で遊ばせることに慣れていて、そういうことを知らないだけかなと思います。

永野委員長 「公園遊び応援隊」のような組織を意識してつくるということをしないと進んでいかないとおもいます。有馬のこども文化センターで流しそうめんをする際に、そのための竹の切り出しなどで子ども会のOBを集めて依頼し、その中で、子どもの遊びを応援することをしていこうよと声をかけてみました。ちょっと声をかければ、PTAや子ども会の経験のある人材がどこの地域にも結構いるのではないかな。そうした人を集めて、プレイリアカーにちょっとした遊び道具や七輪などを入れてというようなことができれば良いと思います。区にはそうしたものの認知と支援をぜひお願いしたい。例えば数万円でも良いので、必要な備品などを買う資金の支援などでしょうか。そのあたりが提案になるのかなと思います。

佐藤部会長 委員会がいくつもできてしまうと、混乱してしまうのではないかなと思います。

持田委員 例えば有馬地域では有馬ふるさと公園でプレイパークをする。地域の小さな公園も遊びの場となるようにしていくという流れで理解しています。大学生のボランティアという話もありましたが、卒業したらいなくなってしまうような形ではなく、本来なら地域の人たちからまず、いかに若い人を取り込んで、ずっと地域で活躍してもらえるようにできるかということが重要だと思います。

事務局 担い手さえいれば、プレイリアカーは実現に向けてそれほど大きな障害はないと思います。ただ普段リヤカーを置く場所でしょうか。区役所に置いても良いのですが、区役所から遠い地域もあります。たとえば、地域の小学校のスペースを借りて、保管してもらおうというような形をとるなど、地域の人も交えた交渉が必要です。庁内で話す際も、誰が担い手としてやるのか、という話が必ず出てきます。その意味でも全地域でやるのではなく、やれる地域から徐々にとということになるかなと思います。

永野委員長 宮前区には、8つのこども分化センターがあり、それぞれの運営協議会にかんがる一をはじめとする子育て支援団体や町内会自治会など地域の代表が入ってきています。ここに声をかけて、公園遊びの応援、公園イベントの企画運営などを進めていければ、動きだせるのではないのでしょうか。

吉岡委員 うちの方の公園では、公園内に防災器具の設置場所があり、リヤカーも2台くらい入っています。折りたたみ式で、先日避難訓練で使用した時、これは子どもの遊びにも良いかなと思っていたところでした。決めています。ただ、こども文化センターの運営協議会に声をかけても、すぐにはいと受けてくれるものではないと思います。結構その他の事で手いっぱいになっている状況もあります。

事務局 たとえば、宮内の子育て関係グループに、「こういうプレイリアカーをつくりまして、各こ文の倉庫においてありますから、どうぞご活用ください」というような募集や広報を粘り強くやっていくのはどうでしょうか。

久保委員 「あるものを使って下さい」だけでは、あまり興味を引けないと思います。どういう遊びをするのか、どういう道具をそろえましょうというような部分から、みんなで相談してできると良いです。それだったら楽しいかなと思います。時間をかけないとだめだと思います。リヤカーに入れるツールから、子どもの意見や遊びのプロの意見を取り入れる。それが楽しいのではないかなと思います。

福本委員 現在こども文化センターに集まっているような方たちも公園遊びに関する議論はしてきていないと思います。ほとんどがそれぞれ好き勝手に遊んでいるのが現状だと思います。

久保委員 知らせると言うことがまず大事です。今、山岡さんなども入っている、遊び場ネットという組織があるのですが、そこで高津区のプレイリアカーなどもやっています。そうした先進事例を写真などを見せながら、うまく伝えていければ、「自分もやってみたい」という人が出てくるのではないのでしょうか。

福本委員 それを会議に持ち込めると良いと思います。

久保委員 子ども会の担い手、企画に関わってくれる人はなかなかいないのですが、一方で夜店の手伝いをやりたいというお母さんはいっぱいいます。企画は面倒くさいが、夜店の売り子は子どもたちとも話ができるし、楽しいからやるという人がいっぱいいるということに最近気が付きました。

福本委員 プレイリアカーは各公園に「おたくはいつ、おたくはいつの日に周りたいのですが、いかがでしょうか」というような投げかけをしながら、きっかけをつくっていくのが早いのではないかなと思います。まずどんなものか見せていくということです。リヤカーが来る日が楽しみにしてもらえようになれば、そこで各公園で地域の人にさらに工夫を加えていただき、担っていてももらえるような流れがつけると良いです。

佐藤部会長 菅生中学校の地域教育会議に関わっているのですが、子ども会議というので、まちづくりに取り組んでいこうという話になっています。予算はないのですが、子ども会議に集まってくる小学生や中学生をうまくこの活動に参加できるようにできないかなと思いました。自分の子どもを見ていて思うのですが、最近の子どもは遊具を大切にしなくなってきました。自分たちで決めながら、リヤカーの中身など、子どもたち同士で考えていくことができれば、大事にすると思います。いつも提供されたもので、遊ぶばかりでは、愛着もわいてこないと思います。

永野委員長 5, 6年前、わくわくプラザができる前に、各小学校で「遊びの広場」という企画が月1回開催されていました。青少年指導員と体育指導員、PTAの三者が運営し、学校の体育倉庫を開けて、ボールや竹馬などの道具を出して自由に遊ばせ、安全だけを大人がみているという形でした。回を重ねるごとに子どもたちも遊びがうまくなってきます。年数回かは凧揚げなど企画された遊びも楽しみました。公園遊び応援隊のような組織ができれば、月2回などからでも良いので、定期的に同じ様な活動ができれば、そこから育っていけないのではないかなと思います。

佐藤部会長 日常的なものとイベントは分けて考えた方が良いのかなと思います。

田邊委員 最初になにをつくっていくのか。最後の細かい所は実際にその地域に携わる方々に決めていただく。この場では、大きな所でのルールづくり、行政からの支援の内容などを検討し、あとはプレイヤーなど担い手の育成について、いろいろなところから人材を集めて進めていければ良いと思います。様々な利用者がどうやったら一緒になってやっていけるかは、その公園のある

各地域でしか決められないと思います。

持田委員 なかなか先が見えてこない。なぜかと考えると、公園は必要だけど、家の中で遊ぶことも多い中、行きたい人が行けばよいのではないかと、無理やり公園に人を集めても意味がないのではないかと意識がどこかにあります。自分の子どもを見ても、公園には行っていません。でも行っている子は行っています。

事務局 議論ペーパーにもあるように、まず何よりも、「目指すべき方向性」として、公園を地域コミュニティの場として活用していくということです。公園というと、つい子どもたちに目がゆきがちですが、子どもたちだけでなく、高齢者や地域の大人も関わっているような、公園を通してのコミュニティを考えていく。そこを常に踏まえておく必要があります。

持田委員 プレイリアカーも公園キャラバンも子どもたちのため、ということだけでなく、そこに大人や高齢者が関わる地域の場として考えるということですね。

吉岡委員 大きな視点から見た公園の使い方が良いと私も思います。

事務局 ただ、区民会議の提案としていただいた時に、あまり漠然としていると手の打ちようがありません。少しは具体的に担い手や内容についても踏まえながら言及しないと、取組の実施につなげていくことが難しくなるかなと思います。これは第1期からの反省でもあります。

永野委員長 コミュニティづくりの促進、支援ということになってくると思います。現状としては、それぞれの利用者が個別に利用している、子育て世代が使いにくい、コミュニティへの参加の方法がわからないなどの課題があり、それに対してイベントの開催や、多様な使い方の促進という提案が出てきています。

担い手育成の面では、維持管理と企画運営の担い手を一緒に考えるとまぎらわしくなってしまうような気もいたします。分けて考えても良いのではないのでしょうか。

事務局 スタンプラリー、ディスカバーウォーク、写真コンテストなどのイベントや、プレイリアカー、公園キャラバンのしかけなど様々なアイデアや案が出されていますが、これを全て提案として行政だけで受け、行政主導で進めていく体力は、正直に申しましてありません。しつこいようですが、担い手が地域の中から出てくれば、一緒にやっていったり、支援をしていくことはできます。ある程度担い手の確保が前提になって、初めてこうした提案ができるのだと思います。

例えば、公園フォトコンテストですが、現在、まちづくり推進協議会との事業であるフォトコンテストが全区的に、テーマを公園のみに絞らない形で開催されている中で、区役所主導で公園のみをテーマにしたフォトコンテストを開催することはできません。

既存のイベントと連携したり、新たな担い手を見つけていく必要があります。例えば、既存のディスカバーウォークがありますが、それにプラスしてスタンプラリーをしていこうというような形もありえると思います。

福本委員 野川中の教育会議では、今、子どもを対象とした写真展と昨年もやったカルタのウォークラリーをやるという話になっています。西野川小、野川小、南野川小と3つのコースで、各コース60名ほどの参加があり、前年度と違ったコースを周ります。協力者もかなりおり、うまく運営されています。

また、西野川小の教育会議にも出ていますが、こちらでは子どもの遊びなどについては、話が出ていません。朝のあいさつなど学校側が決めてきているテーマが中心でした。子どもたちに普段どういう遊びをしているのか、どんな遊びをしたいのか、そして、その中で公園がどのように利用されているのか、何をやったら公園に行くのか、聞いてみたいなと感じています。

地域には小さな公園もたくさんありますが、ある程度大きな公園を対象にまず組織をつくっていき、プレイリアカーなどを進めていけば、自然に動きができていくのではないのでしょうか。

永野委員長 「宮前区公園遊びの日」の設定という案は結構おもしろいと思います。これに合わせてスタンプラリーなどを既存の活動と連携しながら、進めていけないのでしょうか。今、「子ども安全の日」が毎月1日と10日に全市で設定されています。警察はその日に青色回転灯のパトロールカーを出しているだけですが、こうして決めるだけでも大きな影響力があり、既存の活動と結びつけた動きも可能になると思います。

佐藤部会長 これまでの部会の会議でも出たご意見だったと思います。そこで、公園遊びの日を定めれば、本当に連携ができるのかということが問題になってくると思います。

永野委員長 行政の方で「公園遊びの日」ということで設定していただければ、例えばディスカバーウォークなどの既存のイベントをそこに合わせてやっていくことは充分可能です。公のお墨付があれば、今それぞれ独自に活動している団体も動きやすくなると思います。

佐藤部会長 今いくつかあげられているイベントやしかけについて絞り込んで、より具体的に検討していくことはできないのでしょうか。

永野委員長 担い手の問題ですが、運営の担い手を維持管理の担い手と分離して進めていくことは可能でしょうか。

事務局 行政として公園緑地管理運営協議会を施策として進めてきた経緯があります。元々公園緑地管理運営協議会の機能には、運営も入っています。それがなかなかうまく機能していない面はあるのですが、だからといって新しい組織を別にとすることは難しいです。あくまで公園緑地管理運営協議会がもっとうまく機能するように働きかけるという方向性になります。プレイパークについても関係局とお話したところ、公園緑地運営協議会のしくみの中で進めていただければ問題ないということでした。様々な活動団体が公園に関わっていて良く、公園緑地運営協議会に属さなくてはいけないということではないですが、地域との関係の中でベースとなるのは公園緑地運営協議会ということです。

福本委員 実際に進める際には、まず企画があり、それに対して協力者、参加者を集めるという順序になると思います。まず企画がないと人は集まってこないと思います。

永野委員長 その企画まで公園緑地協会にまかせていくのは、難しいと思います。その辺りをうまく提案したいですね。こども文化センターの運営委員会、こども会、青少年指導員などから地域で核になる人を見つけていきたいです。

佐藤部会長 そうした地域の諸団体と公園をどうつなげていくのか、まだピンときていません。

福本委員 「公園遊びの日」が仮に設定されれば、それに合わせてイベントを企画する動きに弾みがつくと思います。そしていろいろな企画、活動を進めていく中で、様々なつながりや組織ができていくと思います。あまり難しく考えなくて良いと思います。

永野委員長 きっかけづくりとして、区民会議の提案を行政が受け止め、施策として認めたというお墨付が欲しい。それがあれば、青少年指導員や子ども会も動けると思います。

事務局 行政の考え方は逆です。例えば青少年指導員が「公園遊びの日」を設定したなら、こういうことをします、できますというお墨付や、具体的な企画があれば、事業化ができると思います。

永野委員長 我々（青少年指導委員会）単独ではなかなかできませんので、PTAや子ども会にも声をかけることになります。その際にこれは区で進めている施策ということがあれば、より声がかかりやすくなります。そうでないと、実際にはいろいろなことで忙しいからと言われてしまいそうで

す。

事務局 例えば青少年指導委員会など各団体で、「公園遊びの日」を設定した場合にどんなことができそうか出していただければ、行政としても動きやすくなります。それもない内にただ、「公園遊びの日」と花火だけ打ち上げて、その後、誰がやるんだとなった時に、梯子が外されてしまうかもしれないと考えると、非常に怖い面があります。区民会議で今、こんな議論がされているんだけれども、という形で各団体に伝えて、検討していただければと思います。宿題のような形で、委員さんから持ち帰っていただければと思います。

佐藤部会長 第1期宮前区区民会議では非常に良い提案がたくさんありましたが、宮前区の地域の課題として担い手を募集したところ、なかなか応募が来なかったという現状があります。良い提案がいくつあっても、それをやってくれる人がいなければ、ただの文面で終わってしまいます。各団体に持ち帰って話し合っただけ、より具体的にしたほうが良いと思います。

福本委員 私もそう思います。

佐藤部会長 どちらが先というのではなく、お互いにこれをやりたいんだというのがあり、その上でお互いにどこまで、何ができるのか、すり合わせながら進めていく必要があると思います。

福本委員 行政から出してもらいよりも、下の方から、地域から出していった方が、区民のやる気も、機運の盛り上がりも高くなると思います。次回までに我々区民会議委員が参加している団体に話をしてみて、その結果を持ち寄りたいと思います。

永野委員長 どのような呼びかけをするかが重要になりそうです。

事務局 これまでの経緯や主旨などを説明する資料は事務局で作成してみたいと思います。やはり提案をきちんと実現させていくことを考えますと、裏づけをきちんとした上で提案につなげていきたいです。それができないと区民会議の制度自体が成り立たなくなってしまう恐れもあると思っています。

永野委員長 元々は子育て世代の親たちが、公園で遊べない、遊び方がわからない。シニアなどそれぞれの活動は公園で行われているのだけれど、バラバラで地域コミュニティの形成につながっていないという問題意識があります。その辺りをうまくアピールしていきたいです。

田邊委員 公園を場として地域コミュニティをつくっていきこうというのは、行政ではなく、私たちから出したことです。

佐藤委員 ただ、「これをやりたい」と言うだけならば区民会議でなくても、どんな団体でも、一般市民でもできます。区民会議の良さは、各委員が様々な立場、団体から参加していて、それぞれの地域や団体に検討結果を戻せる。そしてさらに意見をいただいたり、取組に向けて動いていくことができる。実現に結びつけていくまでが、区民会議の責任であると思います。

私は公募委員なので、特にバックの団体はないのですが、それがあったとして考えると、ただいきなりこういうことをやってくださいと言われて、いくら予算がついていたとしても、興味が持てなければそこで止まってしまうと思います。また逆に興味があれば、どんどんうまく回っていきそうです。その意味でも各団体に一度持ち帰っていただき、ご意見やどういうふうに関わっていただけるか、伺えるとすごく良いと思います。

福本委員 区民会議の提案は、予算を考えずに検討している面があり、その意味ではちょっとぬるい面があるかなと感じています。予算面がはっきりすると、もっと真剣になるのではないのでしょうか。

事務局 区民会議の制度は市として打ち出した重要な施策であり、区民会議から出された提案は、他のものより格段に予算化されやすいという傾向はあります。必ず予算がつくとお約束はできません

が。

永野委員長 来年度の協働推進事業として、公園遊び推進事業が立ち上げられるというようなことになれば、来年春までに、かんがる一をはじめとする子育て支援グループや子ども会、青少年指導委員会、地域教育会議などで、その企画書をつくるということはできます。

事務局 各団体からの意見や提案も踏まえた具体的な提案が進み、何にお金を使うのか、きちんと説明できるレベルになれば、来年度の協働推進事業としての予算化もまだまだ充分可能です。もちろん額等の問題はありますが。

福本委員 予算化や支援が決まれば、民生委員児童委員なども独自の案を立ててくれると思います。

吉岡委員 各団体からの手ごたえがある程度ないとだめということですね。

事務局 現在の川崎市の市政のスタンスとして、自治、基本的に地域の課題は地域で解決していくこと、を進めていくということがあります。区民会議もその中での制度です。区民会議が提案しつばなし、区民会議の提案が宙に浮いてしまうということは、あってはならない、避けたい事態です。

吉岡委員 例えば「公園遊びの日」というのはいつに設定するのが良いでしょうか。

事務局 そうした設定も区民会議の中で検討いただいても良いと思います。例えば皆さんがイメージしているのは決められた日にみんな動けるような「統一美化デー」のような感じでしょうか。

久保委員 プレイリアカーですが、本当に粗大ごみから拾ってきたフライパン、家庭からの使い古しのお茶碗、ペットボトルと水、そんなものがあるだけで、子どもは遊びます。それをいつもは第一公園だけど、公園遊びの日にはどこに行くよ、次はどこに行くよというようなことはそれほど負担なく、簡単にできると思います。

佐藤委員 「公園遊びの日」という旗をあげてほしいということ、それが可能ということでは合致していると思います。今後は、それぞれ両者どこまで協力できるかという話を進めていきたいと思えます。一度各団体や地域に持ち帰っていただき、どんなことができそうか、やってみたいか聞いていただくということでもよろしいでしょうか？

※ 一同了承

※ 投げかけ先として青少年指導員委員（永野委員長）、地育連、自主保育（久保委員）、地域教育会議、社協（田邊委員・目代委員）などがあげられた。

佐藤委員 社協は子育て関係だけでなく、ぜひ高齢者関係にも声をかけていただきたいと思えます。公園遊びの日にボランティアを募って、高齢者を公園に連れてくるなども良いと思えます。

福本委員 スタンプラリーの時に、11月で寒いので、帰ってきた時に温まれるように社協で豚汁でもつくりましょうという話になったのですが、前の晩に準備するのは衛生管理上の問題でだめだということで、おじゃんになってしまいました。しかし、地域で何かあれば、社協も協力いただくことは充分可能だと思います。

事務局 これまでの議論をまとめ、説明し、各団体の意見や提案を出していただくための資料は事務局で用意し、各委員に送付させていただきたいと思えます。各団体に持ち帰り、ぜひご検討いただきたいと思えます。

コンサルタント 公園遊びの日という旗を掲げてから、イベント実施までの道筋をつくるということだと思います。企画の内容がもう少しはっきり出てくれば、「公園遊びの日」をいつに設定すればよいのかということも見えてくると思えます。各団体が一緒にやる上ではこの日が良いということもあるかもしれません。

田邊委員 公園遊びの日を地域でそれぞれ設定してはだめでしょうか。

永野委員長 よいと思います。

コンサルタント そういう考え方もありますし、宮前区として統一して決めて動く考え方もあります。どちらにするのか、そこもまだ見えていない段階です。

佐藤委員 これまでの会議では、統一的に決めて、小さな公園でも一斉に動いて、公園遊び、公園活用を広げていくという流れだったと思います。それはご理解いただきたいと思います。

田邊委員 統一美化の日は各町内会で地域の美化と公園の美化がなされています。その時にはある日程が与えられて、その日、またはその前後に行ってくださいということで進められています。

事務局 統一美化の日に合わせて公園遊びの日を実施するのも、ひとつのアイデアだと思います。統一美化は9月の最終日曜日となっていますが、大体美化活動は午前中くらいで終わっているようですので、その日の午後から公園遊びという提案もできます。元々集まっていますので、無理もないのかなと思います。

永野委員長 地域の特性や都合によって多少ずらしていただくのは、かまわないと思います。担い手の育成についても、もう少し考えていきたいですね。

佐藤部会長 プレイリーダーの育成については、プレイパークルールづくり委員会で扱っていったほうがいいでしょうか。

福本委員 地域で何かのイベントやる際には、品物の提供など、地元の有志が積極的にうちには何があると、あるものを持ち寄ってきてくれます。宮前区は古いうちや農家が多いので、リヤカーなども提供をお願いすれば、出してくれる家があると思います。

事務局 担い手育成については、第1期の明日のコミュニティ部会から提案をいただいています。また、提案を受けて、シニアの地域コーディネート講座なども行ったのですが、それがなかなか現実には結びついていないという現状もあります。私のこれまでの経験から考えると、担い手というのは、講座などでつくるものではなく、活動の中からしか生まれてこないのではないかと感じています。継続的に参加していくなかで、次の担い手になってくれそうな人に目を光らせておき、そして育てていく。それしかないのなかと感じています。

久保委員 そうした方にも委員会に入っていただくようなイメージでしょうか？

事務局 かならずしもそうでなくてもよいと思います。

福本委員 委員会に入ると、かえって拘束されてしまう面もあると思います。身体が空いている時に手伝ってくれる人をたくさん集められるとよいと思います。

田邊委員 地域のお祭りになると、自然に地域のボランティアが60人くらい集まってきて、やぐらをパッと建てていたりする。一般の人たちが入っている。地域には、地域毎に様々なつながりがあります。それが担い手の形につながっていくような形が理想です。無理に公園の担い手、プレイパークの担い手という形でなくても、自然と集まってくるようにもっていきたいです。

久保委員 地域安全マップでは、担い手づくりということで、インストラクターの育成講座をやっています。同じような形で公園遊びもインストラクターのようなものを組織していくようなイメージでしょうか。

永野委員長 地域安全マップのインストラクター育成は、地域教育会議と防犯ネットワークの数名で始めました。そのインストラクターを増やしていくために、何度も実地体験を行って、2回以上参加していただいた方はインストラクターと認定し、証明書も発行しますよというしくみ、インストラクター講座などをきちんと作ってきています。段階を追って進めてきたからこそ担い手が増えている。ただ集まってやればよいということでは、担い手は増えていかない。プレイリーダーを育成す

るなら、自然に育っていくということではなく、意識して養成していくしかけが必要だと思います。

事務局 役割を決め、それをこなせる人という意味での担い手の育成は、意識的に進めていけばできると思います。例えば、プレイリーダーはあくまでプレイパークの中で子どもたちを指導するという限定された役割という意味でなら育成できると思います。ただ本当に大切なのは、ぼれぼれでの山岡さんのような地域の中で、主体的に動ける人、様々な活動や人と人とをコーディネートすることができる人材だと思います。それはそう簡単にはいかないと感じています。

久保委員 コミュニティのきっかけづくりということであれば、公園に誰もいないのではなく、誰かいるだけで、意外と人と人とはつながっていきます。乳幼児の外遊びも広場もそういうつもりでやっています。

事務局 言われてやるのではなく、そのことが良いことだから、好きだからやっているという人がいないとなかなか長続きしないのだらうと思います。

久保委員 私は安全マップは目代委員に誘われて、興味本位で参加したがために、いきなりリーダーをやってくれといわれました。ただ、それはそれで楽しかったし、仲間が増え、インストラクター同士で声を掛け合ったり、マップづくりを深めていけるようになると、自然に浸透してきているのかなと思います。ただ、もっと関わって欲しい人の背中をちょっと押してあげる、引っ張り込むということもとても重要だと思います。その意味ではインストラクター制度みたいなものはあってもよいのかなと思います。ただ遊びを指導や教育的な意味で固く捉えては決してやってほしくないという思いもあります。あくまでも子どもたちの自由な発想、子どもたちがやりたいことを活かすというポイントは抑えてほしい。しつけやさばきをするようなことはしてほしくないです。

永野委員長 核となる人の周りに大勢の応援者がいることも長続きには重要です。そのしくみがないと、真ん中の人も負担が大きくなり続けていけなくなってしまう。真ん中の人がうまく世代交代して継続していけるようなしくみが何かできないかと感じています。

事務局 そこまでいってしまうと、それはその団体が決めることであり、外から決めたり、しくみをつくるのは難しいのではないのでしょうか。

佐藤委員 インストラクターを養成しても、その人が来てくれなければ意味がない。また来てくれてもその人が活躍する場がなければ意味がありません。私も地域教育会議から2名ということで、割り当て的に安全マップの講座に出たことがあるのですが、行って体験したことを活かす場が私にはありませんでした。必要性があって、育成の流れが出てくる方がよいかなと思います。プレイパークの宮前版の中に子育てグループの外遊びの会も含めていくような、話ができると良いと思います。

先ほど出ました各組織でできることややりたいことのアイディアは事務局が呼びかけのための資料をつくってくださるということですので、みなさんぜひご協力をお願いいたします。

またプレイパークについては、委員会を各公園での担い手組織とは別に、区全体として、子どもの遊び場も含めて、要綱やルールづくりを立ち上げていくという提案でよろしいでしょうか。

(一同了承)

□今後の日程

- ・8月4日(火) 区民会議(全体会)
- ・9月3日(木) 次回部会